

☆亀山市立中部中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

人権課題を自分の問題として捉えられず、課題解決の展望を持たない児童生徒や、十分に思いを伝え合うことができず、傷つけ合ってしまう児童生徒がいます。また、学んだことをもとに自分の思いを発信したり、おかしいことをおかしいと気づき声をあげたりすることのできる児童生徒は、まだ少ない状況です。さらに、厳しい家庭環境におかれ、自尊感情が高められず、学習意欲も低い児童生徒がいます。

そうした児童生徒に適切な支援ができるよう、小中学校の連携はもとより家庭や地域とともに、児童生徒理解を深め、支援のありようについても考えていくことが必要です。



人権クリアファイル

2 課題解決のための主な取組

(1) 児童生徒たちの活躍の場づくり

① 中学校区人権クリアファイルの作成

児童生徒が差別やいじめを無くそうという思いを地域住民等に伝えようと、人権クリアファイルを作成する取組を行いました。地域住民や保護者から児童生徒たちへの声かけがきっかけになり、普段はなかなか力が発揮できず、しんどさを抱えている児童生徒が生き生きと活動しました。

② 「ヒューマンフェスタ in 亀山」への参加

中部中学校の人権サークルの生徒が中心となってブースを出展し、中学校区の取組を紹介しました。人権サークルの生徒の活躍の場とともに、自分たちの身近な地域に、自分たちの活動を認めてくれる大人が存在することを知る機会となりました。



ブースを出展

(2) 地域の力による児童生徒支援

① フレンドリークラブ

年6回、地域の方が講師になってクラブ活動を行っています。児童生徒にとっては、地域住民が自分たちの力になってくれ、見守られ大切にされていると感じる機会となりました。

② 三世代交流

地域の高齢者が講師となり、児童生徒とわらざり作りやしめ縄作りなどを行いました。

③ 灯踊り

地域の保存会の方が「灯踊り」を実演して、児童生徒が体験し学ぶ機会をもちました。地域の方に喜ばれることで、児童生徒たちの自己有用感を育むことになりました。

④ 人権図書コーナー

地域住民で構成する図書ボランティアと本棚設置の工事をしてくれる方が、児童生徒たちと話し合いをもちました。「みんなが輪をつくり、本を読める本棚」というアイデアから円の形をした本棚が生まれ、完成しました。

(3) ネットワーク委員会等の研修会

① 保護者・地域と共に学ぶ「地区集会」

大人が中学校の人権学習を体験しました。児童生徒たちの学びを知り、様々な人権課題について共感・共有することができました。

② 子どもと共に学ぶ研修会・教育懇談会

増田太郎さんの講演ライブを開催しました。自分に自信が持てずいたり、将来に展望を持たずいたりした児童生徒が、しっかりと顔を上げて聞き入る姿があり、大人がどのように子どもたちに接していけばよいかを考える機会になりました。

◆実践を振り返って

ネットワーク委員会やネットワーク事務局会では、「教育的に不利な環境のもとにある子ども」について、情報交換がなされるようになったり、児童生徒たちの現状が共有されるようになったりしました。

「人権クリアファイル」の取組は、児童生徒たちが人権標語や人権ポスターを作成することに始まり、「ヒューマンフェスタ in 亀山」まで続くものとなりました。保護者や地域住民、市内の人権に係わる活動をしている多様な主体が児童生徒たちに様々な働きかけを行うことができ、今後も形を変えながらも継続をしていきたいと思えます。教育的に不利な環境のもとにある児童生徒はもとより、全ての児童生徒たちの自尊感情を高めることを目指していきたいと思えます。